

第198号 平成29年8月5日



市議会だより

■主な内容

第8回議会報告会の概要	2
6月定例会の概要	
主な議案審査状況	4
議決一覧	6
一般質問	7

7月1日、小岐須溪谷で山開き式が行われ、その後アマゴの放流が行われました。

市議会の詳しい情報は鈴鹿市議会のホームページをご覧ください

鈴鹿市議会

検索

<http://www.city.suzuka.lg.jp/gikai/>



議会報告会を開催しました!

第8回議会報告会

平成29年4月23日(日)

午前の部 庄野公民館、井田川公民館、深伊沢公民館、庄内公民館 9:30~11:15

午後の部 加佐登公民館、久間田公民館、椿公民館、鈴峰公民館 13:30~15:15

平成29年3月定例会の内容を中心とした議会報告会を、市内8会場に分かれて開催しました。

第1部では3月定例会の報告、第2部では「(仮称)鈴鹿PAスマートIC周辺について」をテーマとした報告と意見広聴を実施しました。



皆様からのご質問 (一部抜粋)

Q パソコン1台当たりの児童生徒数が、三重県で5.9人、本市で14.4人となっている。もっとパソコンを学校に入れるべきではないか。(学校教育情報化推進費について)

A 教育環境を整えるために、文教環境委員会から教育の情報化について市長に提言している。

相当な予算も必要となるので、学校に関する予算全体の底上げを図っていくため、引き続き他市町との状況も比較しながら検討していく。

Q パーキングエリアについて、地元産品、地元の業者を活用する取り組みはあるのか。地元産品を全国にPRするという機会として捉えているか。((仮称)鈴鹿PAスマートIC周辺について)

A パーキングエリアの管轄は中日本高速道路株式会社の子会社であり、鈴鹿墨、伊勢型紙、鈴鹿の花木などを使ってほしいという要望は伝わっていると聞いているが、建物自体も完成しておらず中身についてはまだ決まっていない。

本市をアピールする場となっていくように、そのようなご意見も議会として注視していく。

ご参加いただいた方からのご意見

- ・全体的に前回、前々回よりも資料が充実してきた。
- ・議会側が市民に対しての説明責任を果たしていくという意気込みを感じた。
- ・市の情報は広報などで把握しているが、本日のような形での報告は大変分かりやすく良かった。
- ・地元の方の意見を聞く良い機会となった。
- ・若い人が関心を持って集まってくれるような企画、PRをしてほしい。

参加人数（合計135人）

午前の部		午後の部	
庄野公民館	19人	加佐登公民館	25人
井田川公民館	19人	久間田公民館	12人
深伊沢公民館	32人	椿公民館	11人
庄内公民館	9人	鈴峰公民館	8人



※議会報告会の記録は、各会場で閲覧できます。
また、議会ホームページにも掲載していますので、
ぜひご覧ください。



今秋、第9回議会報告会を開催予定!!
詳細は後日、ホームページなどにて
ご案内します。

今回も貴重なご意見ありがとうございました。
今後の議会活動の参考とさせていただきます。
市議会をより身近に感じていただけるよう広報・広聴の充実
に取り組んでまいります。
今後ともよろしく願いいたします。



6月定例会の概要

6月定例会が、6月1日から6月29日までの29日間開催され、「鈴鹿市学校規模適正化検討委員会の設置等に関する条例の制定について」など26件の議案について可決しました。

6月1日	開会 市長から議案(議案第31号～議案第34号)の提案説明
12日	議案質疑
13、14、15、16日	一般質問
16日	市長から追加議案(議案第35号)の提案説明
20、21日	各常任委員会での議案審査
29日	各常任委員会委員長から審議内容についての報告、全議案可決 市長から追加議案(議案第36号～議案第56号)の提案説明、全議案可決 閉会

各委員会での主な議案審査状況

文教環境委員会

議案第31号 鈴鹿市学校規模適正化検討委員会の設置等に関する条例の制定について

学校の規模、配置の適正化を調査審議するため委員会を設置します

(概要) 少子化の進展などを背景として、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されており、本市においても、児童生徒数の減少や人口の地域的な偏在が予測され、過小規模校の発生などが見込

まれます。そこで、学校の規模、配置の適正化を調査審議するため、教育委員会の附属機関として、鈴鹿市学校規模適正化検討委員会を設置することのほか、必要な事項を定めるため、条例を制定しようとするものです。

Q. 学校運営協議会や地域づくり協議会の方に、委員を委嘱するべきではないか。



A. まずは、PTAや学校関係者、地域の方など約300人にアンケートで意見聴取を行う予定です。

検討委員会は、全市的な基本方針を作り上げていくものであり、自治会連合会の代表者に委嘱しようと考えています。しかし、検討委員会を通して学校規模が適正ではないと判断し、個別地区での再配置計画の策定が必要であるとしたときには、特定の地域の地域づくり協議会の方に参画していただくことも考えています。

地域福祉委員会

議案第 34 号 鈴鹿市立幼稚園条例の一部改正について

鈴鹿市立幼稚園の保育料の上限が変わります

(概要) 鈴鹿市立幼稚園の保育料については、現在、年額の上限を7万4,400円と定めていますが、国の上限額基準の30万8,400円の24%と極めて低く、保育所、認定こども園、私立幼稚園の保育料とも大きな差が生じています。

このような状況の中、鈴鹿市立幼稚園の保育料について適正な受益者負担を図るため、鈴鹿市立幼稚園の今後の在り方検討会議でいただいた意見も踏まえて、その年額の上限を、15万3,600円に改めようとするものです。

Q. 保育料の上限の引き上げについて、どのような議論があったのか。



A. 鈴鹿市立幼稚園の今後の在り方検討会議の中で、公立と私立の幼稚園では保育料に大きな開きがあるため見直しもやむを得ない、保育条件の整備に合わせて徐々に見直しをしてはどうかといった意見がありました。

産業建設委員会

議案第33号 字の区域の廃止並びに町及び字の区域の変更について

字の区域を廃止し、町・字の区域を変更します

(概要) 鈴鹿都市計画事業白江土地区画整理事業において、従前の町・字の境界が新たな土地の区画とは整合しないことから、新たな土地の区画に合わせて白子町、江島町の2つの町に整理し直すため、事業区域内について字を廃止す

るとともに、その一部区域において町・字の区域を変更しようとするものです。

なお、この廃止・変更の効力については、平成30年度に予定されている本事業の換地処分の公告があった翌日から生じます。

Q. 地域住民との間ではどのような課題があったか。



A. 白江土地区画整理組合や関係自治会などに事前に説明しましたが、特に問題はありませんでした。

なお、この事業では住居表示は行わず、親しみのある「白子町」、「江島町」の町名を残すことになりました。

< 議案について >

中西大輔議員 (鈴鹿の風)

全議案に賛成。

議案第31号に以下の意見を述べる。

鈴鹿市学校規模適正化検討委員会の設置等に関する条例の制定について、先に公開された基礎調査の報告書の内容と、議案質疑、委員会審議から、コミュニティ・スクール、公共施設等総合管理計画、都市計画、地域包括ケアシステム、防災、地域づくりといった政策課題が密接に絡み合っていることが分か

る。公共施設等総合管理計画に関して、行政経営課と連携し、速やかに臨時委員を置くべきである。市民も含めた合意形成も重要になる。教育課題、都市計画、地域課題などがある中、検討委員会だけで意見がまとまるのかを危惧する。学校の背景にある社会状況などの知見も含め、注意して考えるべきである。

教育委員会も方向性を持ち、十分な議論と、情報の公開のもとに進めるべきである。教育委員会の誠実な対応を期待して賛成とする。

議 決 一 覧

6月定例会に上程された議案は全て全会一致で可決されました。

議案番号	件 名
議案第31号	鈴鹿市学校規模適正化検討委員会の設置等に関する条例の制定について
議案第32号	鈴鹿市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について
議案第33号	字の区域の廃止並びに町及び字の区域の変更について
議案第34号	鈴鹿市立幼稚園条例の一部改正について
議案第35号	和解について
議案第36号	鈴鹿市教育委員会委員の任命同意について
議案第37号	鈴鹿市監査委員の選任同意について
議案第38号 ～議案第56号	鈴鹿市農業委員会委員の任命同意について



一般質問 (要旨)

市議会ホームページにて一般質問の録画配信と会議録を公開しています。詳細は14ページをご覧ください。

緑風会 平畑 武 議員

ふるさと応援寄附金について

(質問) 応援寄附金は8項目に分類して使用されているが、「市長にお任せ」の項目として、小学校の老朽化した体育館の建て替えやトイレの洋式化など、大幅改修の費用に充ててはどうか。

(答弁) 平成28年7月から「ふるさと納税推進プロジェクト」として、庁内の組織を横断する形でワーキンググループを設置し、10名程度の職員に

より拡充策を協議した。その結果、平成28年度の寄附金額は約1億6,200万円に大幅増額となった。平成29年度事業への充当は8項目の用途に分類して行うこととしており、中でも「市長にお任せ」の項目として9,101万円を充当することに決定した。屋内運動場の更新や小中学校のトイレ改修の必要性は十分認識しており、これらの課題解決や鈴鹿市総合計画2023の実現に向けて優先度を考慮し、効果的に事業に活用できるよう、予算編成過程の中で十分検討したい。

市民クラブ 市川 哲夫 議員

鈴鹿市の道路インフラについて

(質問) 鈴鹿環状線磯山バイパスの現状と今後の計画は。

(答弁) 鈴鹿環状線磯山バイパスは、三重県鈴鹿建設事務所により事業が進められている。

1期工区の、磯山四丁目国道23号から五祝町旧県道上野鈴鹿線までの延長約1.8kmは平成27年2月

に開通となり、その先線となる徳田町国道23号中勢バイパスまでの延長約1.7kmは、平成27年度から引き続き2期工区として事業に着手されている。今年度は、道路詳細設計を完了させるとともに、伊勢鉄道との交差部の詳細設計や用地買収が予定されている。

幹線道路の整備促進は本市にとって大変重要な課題であり、一日も早い開通に向け、今後も積極的に事業主体や関係機関への要望活動を行っていく。

その他の質問○東海道、石薬師・庄野宿について

緑風会 宮本 正一 議員

自動車運転免許返納について

(質問) 高齢化や道路交通法改正に伴い、運転免許自主返納者の増加が想定される。移動困難者に対する具体的な支援策が必要であると考えますが、市の対応を問う。

(答弁) 本年3月12日に改正道路交通法が施行され、認知症と判断された場合は運転免許の停止や取り消しの対象となる。平成28年中の市内

における65歳以上の免許返納手続き数は291件であったが、平成29年中には800件に達すると予測されている。本市の高齢化率は21%に達しており、高齢者を含む市民の移動手段の維持、確保を図ることは重要な課題であると認識している。現在、関係部局における支援策の研究が行われているが、今後も高齢者の増加が想定されることから、「高齢者の移動支援策」について全庁的にその方向性を検討していく。

その他の質問○交通安全対策について

公明党 藤浪 清司 議員

ユニバーサルデザインの推進について

(質問) 現在改修中の市民会館、今後改修予定のAGF鈴鹿体育館について、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザイン化への取り組みを尋ねる。また、現在の緊急避難警報では聴覚障がい者には分かりにくいので、対策を尋ねる。

(答弁) 市民会館は、玄関入口を自動ドアに変更し、エレベーターを設置する。また、入口からロビー案内板までの床に点字ブロックを置き、

歩道から事務所入口と舞台上がる南側通路にスロープを設置する。そして、オストメイト対応多目的トイレを設置し、授乳室を増設する。

AGF鈴鹿体育館にもエレベーターを設置し、観客席に車いす利用者用スペースとスロープを設置する。また、1階の多目的トイレは、男女別に1基ずつをオストメイト対応とする。そして、聴覚障がい者に災害発生を知らせるため、電光掲示板や液晶得点表示板で避難情報を表示する。

その他の質問○公共施設アセットマネジメントについて

リベラル鈴鹿 水谷 進 議員

鈴鹿の教育について

(質問) 鈴鹿の教育の現状と課題、それに対する取り組みについて。

(答弁) 近年、環境の変化や価値観の多様化などにより、社会や保護者が学校に求める教育内容や支援内容は、非常に多様で大量なものとなっている。今後ますます増えるであろう個々のニーズや教育課題に対応していくには、従来の学校

の体制や教育環境、あるいは、これまで蓄積してきたノウハウでは困難であると感じている。

そこで、子どもたちが将来幸せな人生を歩めるよう、「知・徳・体」をバランスよく育成するための学校教育を支える施策として、「教職員の資質の向上」、「学校マネジメント力の向上」、「学校教育環境の整備」の3つの取り組みに重点を置いて推進することで、本市の教育の質を高めていく。

その他の質問 ○薬物乱用防止について

鈴鹿の風 永戸 孝之 議員

学校運営について

(質問) 労働時間とメンタルヘルスについて、文部科学省の教員勤務実態調査(平成28年度)の集計では、1週間当たりの労働時間は、小学校で57時間、中学校で63時間となっている。また、過労死ラインとされる月80時間を超える時間外労働は、小学校で3割、中学校で6割との調査結果が報道された。

本市の教職員の労働時間、精神疾患による休職者の現状、今後の取り組みは。

(答弁) 昨今の教育課題の多様化により、時間外労働が常態化している。時間外労働に至る主な要因は、事務処理、指導支援、部活動指導となっている。精神疾患による休職者数は減少傾向にあるものの、教育課題の複雑化による解決の困難によって、教職員がストレスを感じる傾向も強くなっている。全校でのチーム体制の強化、風通しの良い職場環境を推進していく。

自由民主党 鈴鹿市議団 森 雅之 議員

今後の鈴鹿市の農業政策について

(質問) 麦に対しての市単独補助金の現状は。

(答弁) 市単独補助金は、水田農業の維持、農家の経営安定化などに対し大きな役割を果たしてきたが、制度の創設時から米価や地代の下落、国の助成制度の変遷など、集団転作を取り巻く環境も変わってきた。

一方、麦作面積は年々拡大し、予算規模も約1億円となっているが、麦作の耕作者の多くが水田農業の担い手であり、麦作の拡大は、担い手の経

営の安定化にも、地域の水田農業の維持にも貢献している。

このような状況に対し、引き続き地域農業の継続に向け、本市の農業振興に生かせるような補助制度を含め本市の農業施策全体についての検証が必要となる。今後は鈴鹿市農業再生協議会など、農業に関わる関係者の方々と協議を十分重ねながら、持続可能な農業経営、本市の一層の農業振興に向け、取り組みを行っていきたいと考えている。

その他の質問 ○学校のプール・水泳授業について
○鈴鹿市の教育について

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

職員の健康管理について

(質問) 職員の時間外勤務の状況と健康管理について。また、時間外勤務を削減するための具体的な取り組みについて。

(答弁) 1人当たりの年間の時間外勤務について、360時間以内を数値目標としており、全体での年間の総時間外勤務は減少してきている。

1カ月当たりの時間外勤務が80時間を超える

職員に対し、産業医による面接指導を実施している。平成28年度実績では、時間外勤務が年間960時間を超えた職員は3名で、前年より4名減少しているが、改善が必要と認識している。対策として、今年度より、1年を3カ月単位で区切り、時間外勤務の多い職員については、早期に対応を検討している。

メンタルヘルスの取り組みとしては、精神科の嘱託医の設置や、平成28年度にストレスチェック制度の導入などの対策を実施している。

その他の質問 ○ 職員の採用について

鈴鹿の風 中西 大輔 議員

負担見直しのあり方について

(質問) ごみ処理アンケートに有料化の設問があったが考えは。公共料金などの負担見直しには、財政状況の共通資料を作成すべきである。所管部署が事業内容とコスト情報、業務改善や収支改善の取り組みを公開すべきである。アンケートの結果など情報を一元的に集めるべきでは。

(答弁) ごみ処理有料化は現時点で行わない。

過去からの財政の推移や今後の見通しなどを、共通した資料で分かりやすく情報を提供できるよう取り組む。事業所管課は、事業効果を上げるための取り組みや経費節減につながる取り組み・事業の課題などを説明し、理解をいただくことに努めている。今回の提案を踏まえ、共有すべき情報は、積極的に庁内ネットワークを活用するよう周知を行う。

その他の質問 ○休館対応と中学部活の改善について

無所属 中村 浩 議員

北長太川の整備についてパート5

(質問) 北長太川の護岸工事について、第1期工事区間が500mあるが、平成29年度時点における工事の進捗状況は。

(答弁) 北長太川の護岸工事については、平成17年度より整備を進めており、コンクリート製ブロック積み工法により整備し、家屋などが近接している箇所では、施工性や工事影響を考慮し、

鋼製矢板を使用した矢板工法により整備を行っている。

第1期区間の進捗状況は、河川改修に必要な事業用地の取得が昨年度末において全て完了しており、河川両護岸の延長進捗を平均して、約56.3%の護岸整備率となっている。

準用河川改修事業に関する交付金については、大幅な増額が見込めない状況ではあるが、長太地区の皆さまのご理解、ご協力をいただきながら、一つ一つ着実に前へ進めていく。

緑風会 藪田 啓介 議員

引きこもり(ニート)就労支援について

(質問) 不登校から引きこもりになった方や、本市で推計945名みえる15歳から34歳の非労働者、いわゆるニートの方の相談窓口と支援はどうなっているのか。また、障害者手帳がなくても福祉サービスを利用できるが、本市の農福連携事業において、ニートの方へ支援はできないのか。

(答弁) 中学校卒業後、不登校から引きこもりになった方に対し、元担任が家庭訪問などにより継続的に進路指導を行っている事例もあるが、卒業後の子どもたちの状況把握は困難である。

相談窓口は、障害者総合相談支援センター「あい」があり、個別面談、外へ出ることへの意識付け、ひきこもり家族会「すずらん」への紹介などを行っている。

障がい者就労農福連携事業での引きこもりの方への支援については、状況やニーズを把握しながら自立支援や就労支援につなげていきたい。

自由民主党 鈴鹿市議団 森 喜代造 議員

障がい児支援について

(質問) 児童発達障がい児支援について。

(答弁) 療育の必要がある就学前の児童の支援事業所は、市内に11カ所ある。本市の療育センターでは、発達に心配のある児童に言葉の発達などの検査を行うことにより、的確な早期支援ができるよう、言語聴覚士や臨床心理士などの専門職員を配置し、県の機関と連携を図りなが

ら早期からの支援に努めている。

また、窓口の一元化については、現在、相談担当課の職員が手続窓口へ同行しているが、今後は窓口の一元化についても課題を整理し、検討したい。

また、発達相談の件数が年々増加するなど、相談内容も多様化、深刻化し、対応にますます専門性が必要とされている。本市を管轄する北勢児童相談所の相談も増加しており、今後、さらに複雑化することが予想されるため、設置主体の三重県に対して、本市への児童相談所の設置を強く要望したい。

自由民主党
鈴鹿市議団

山中 智博 議員

災害対策とレジリエンス強化について

(質問) インフラ整備中心の対策だけでは限界があり、国も今後は災害からのレジリエンス(回復力)が重要と述べる。中でも東日本大震災の経験から、庁舎や職員が被災しても市民サービスを提供し続けるため、優先的に実施する業務や手順を定めた「業務継続計画(BCP)」の策定が求められる。①本市の取り組みは。②福祉分野でのBCP支援は。③福祉避難所の現状と今後の対策は。

(答弁) ①平成28年度に策定した。発災から3日間は人命救助のため全ての職員が「災害応急対策業務」に従事し、通常業務は4日目から行う。②「鈴鹿地区老人福祉施設協会」などとともに、BCP策定に取り組む事業所を今後も支援する。③市内では21カ所、295人の受け入れを可能としているが、今年度中には実効性を持たせた新たな協定の締結と、避難所運営マニュアルの完成を目指す。今後は亀山市の施設を含め、サービス付き高齢者向け住宅や介護保険事業所でも福祉避難所の設置を検討する。

リベラル鈴鹿

板倉 操 議員

先生の過重労働について

(質問) 国の実態調査で、小中学校の教員が「過労死ライン」で勤務していることが分かったが、本市の実態は。また、原因と解決策についてはどうか。県は勤務時間の縮減と言うが、土曜授業、みえスタディ・チェックを導入してきた。当時の教育長はみえスタディ・チェックについて強く改善を要求していた。現場にさらにシワ寄せが行くと考えるが、現在の取り組みへの考え方は。

(答弁) 本市小中学校の平均残業は月平均30.7時間である。教員の仕事は時間どおりにいかないことが多いが、管理職はその解消に向けて、「学校経営方針」や「自己目標設定票」に総勤務時間の縮減に関する取り組みを明記し、学校全体で努力しているのが実状である。

みえスタディ・チェックについては、今後も効果的な活用を図る。土曜授業は4年目を迎え、今後の在り方を考える時期に来ている。

その他の質問 ○外国につながる子どもたちへの支援

日本共産党

橋詰 圭一 議員

高齢者の生活交通について④

(質問) 生活交通に関する施策の推進は、まちづくりや福祉などの他分野と連携することで、総合的な交通体系を構築することが重要な課題であり、今後の展望であるとの認識のもと、関係部局と連携して検討していることは大いに評価したい。一方で、現在ある公共交通網との関係や財源論については、さらに議論を深めてい

く必要があると考える。

高齢化はものすごいスピードで進んでいる。今、生活の足に困っている人たちは、一刻も早い実現を願っているが、本市の考えは。

(答弁) 今後、高齢者の移動手段の維持、確保を図っていくことは焦眉の課題であると認識している。新たな生活交通システムの検討は、都市計画を進めていくに当たっても重要な要素である。高齢者の移動手段の確保については、関係部局との連携を図りながら、引き続き調査研究を行っていく。

日本共産党

森川ヤスエ 議員

メガソーラー設置の現状と今後

(質問) 本市でも遊休農地の利用や山林開発による大規模なソーラーパネルが多数存在している。その中で、市民の住環境を守るためには、本市の自然環境や景観、大雨などによる土砂流出といった自然災害に関連した防災対策、パネル設置後の保守点検や雑草処理、最終処理などの問題の取りまとめや、住民側の不安や苦情に

対応する窓口が必要ではないか。

また、本市の問題を洗い出し、要綱や条例制定などを検討するべきと考えるがどうか。

(答弁) 今後、庁内において、相談窓口の設置や情報共有ができるような体制の構築の協議、調整に努める。

また、本市独自のガイドライン、条例の策定については、県策定のガイドラインを精査するとともに県下市町の動向の調査研究に努める。

その他の質問 ○庄野公園内トイレ設置の必要性

日本共産党 石田 秀三 議員

国民健康保険について

(質問) 来年度から国民健康保険が広域化され、運営主体に県が加わることになり、財政運営は県が行うこととなった。市は県が算定する「納付金」を納める義務を負い、そのために市民から保険料を徴収するが、昨年大幅に引き上げられた保険料がまた上がることはないか。

市はただ県に従うだけではなく、市独自の取

り組みで市民の医療を保障するとともに、市民負担を少しでも抑える方策を行うこと、財政負担を一般会計からも行うことを求める。

(答弁) 国民健康保険の広域化に向けて県と協議を重ねており、県への納付金の試算も行われているが、本市の国保財政への影響は、9月に提示される仮算定額を見ないと分からない。来年度の予算編成に当たっては、市民の負担増とならないよう、さまざまな観点から慎重に検討を行っていく。

その他の質問 ○西部地域の道路について

公明党 船間 涼子 議員

福祉施策について

(質問) 福祉に関連する複雑な悩みや困り事を、ワンストップで総合的に受け、スムーズに適切な部署につながる、市民に優しく分かりやすい「福祉なんでも相談窓口」の設置を検討できないか。また、プライバシー保護に配慮し、カウンターに仕切りやついたてを置くなど、誰もが利用できる相談室などの環境整備を講じるべきと考えるがどうか。

(答弁) 「福祉なんでも相談窓口」は設置してい

ないが、お客さまに信頼され、何でも相談していただけるよう、各担当課の職員が、常にお客さまの立場や視点に立った窓口対応を心掛けるよう努力する。他市で実施されている福祉の総合窓口については、その経緯や規模、利便性など、さまざまな角度から検証し、検討していく。

相談窓口への間仕切り板の設置についても、プライバシー保護のための有効な手段の一つであると考えており、設置する方向で検討していく。

その他の質問 ○動物愛護について
○斎苑について

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

住民自治の推進について

(質問) 住民自治を推進する地域づくり協議会の設置は、計画どおり進んでいるのか。

(答弁) 地域づくり協議会は、総合計画2023の推進に欠かせないものであり、昨年度から地域づくり推進本部を設置し、全庁体制で取り組んでいる。平成31年度までに市内全域での協議会設立、地域計画の策定を目指す計画に変わりはない。地

域づくり協議会設置条例についても、協議会の定義、区域や認定要件、取り組む事業、市の支援や協力、地域予算などの事項を盛り込む。構成員は住民全員と自治会をはじめとした各団体であること、運営は透明性が高く民主的であることなどを規定したものとして、今年度中に制定する。地域予算については、補助金などを集約して一括交付し、地域が裁量を持って運用できるものとし、協議会の主体性を支援するための事務局費も含め検討し、平成30年度から交付することを目指している。

自由民主党
鈴鹿市議団

矢野 仁志 議員

新しい建設手法の検討を

(質問) ①学校などの公共施設に、鉄筋コンクリート造り以外の建築構造を検討してはどうか。②リース方式による施設整備を検討してはどうか。③施設整備の際に「木のぬくもり」を取り入れていく考えはあるか。

(答弁) ①今後の学校建設などでは、鉄筋コンクリート造りにこだわることなく、建設費用や

耐久性など、さまざまな点を総合的に検討していく。②施設の整備に当たっては、公共施設のリース方式や鈴鹿市PPP/PFI手法導入優先的検討規程に基づき、適切に比較検討を行い、進めていく。③本市では、学校施設本体に木材を利用している事例はまだないが、机などの備品や、廊下・壁・階段などの一部に木材を取り入れている。今後も国、県の補助制度などを活用し取り組んでいく。

その他の質問 ○市役所職員の庁舎内喫煙について
○大型客船の寄港

鈴鹿の風 明石 孝利 議員

南海トラフに向けてバイク防災隊を

(質問) 本年1月に南海トラフ地震の発生確率が引き上げられ、防災への取り組みは急務の課題である。阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などの大災害時において、バイクによる防災隊が迅速性・機動性・省エネ性といった特性を発揮し、活躍した。本市はモータースポーツのメッカとして、またモータースポーツ都市宣言をして

いる全国唯一の都市として、有用性の高い“バイク防災隊”を組織すべきではないか。加えて、本年は「8時間耐久レース」の開催40周年であり、これを機に結成し、全国にバイク防災隊の範を示すべきではないかと考えるがどうか。

(答弁) 災害時におけるバイクは非常に有効であると認識しており、南海トラフ地震による大災害の対策において、バイク防災隊は重要な防災の連携団体となるものと考えている。

その他の質問 ○県下初の中小企業振興条例の制定を

市民クラブ 大西 克美 議員

南海トラフ地震に備えた「減災」を検証

(質問) 南海トラフ地震発生後の避難所の確保について、収容人数を増やすため、小中学校の教室を活用してはどうか。

(答弁) 津波浸水予測区域外の小学校や中学校、市立武道館、公民館などの54施設を避難所として開設していく計画であり、54施設の収容人員を21,161人としている。これは、三重県の南海トラフ地震の被害想定調査結果である、地震発

生から1週間後の避難所への避難者想定数約19,000人を収容することができるようになって

いる。ただ、教室のエアコン設備は災害弱者に非常に有効な設備である。そこで、基幹収容避難所となっている学校については、学校関係者と協議の上、状況に応じて教室を避難所として活用していくことも必要であると考えており、教室の活用を弾力的に進めていく。

その他の質問 ○在宅不登校生への学力支援について

常任委員会調査事項

常任委員会では議案や請願の審査とは別に、各委員会が所管する事務についての調査を行っています。

平成29年度に調査する事項は次のとおり決定しました。

総務委員会

- 1 災害時の復興計画について
- 2 公共施設マネジメントについて



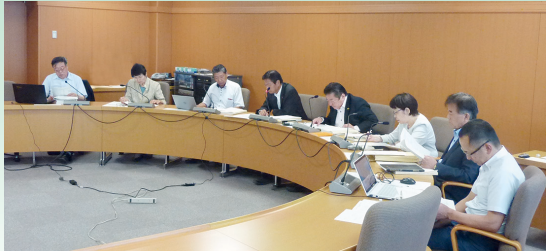
文教環境委員会

- 1 教職員の業務改善について
- 2 ごみの減量と資源化について
- 3 学校規模適正化について
- 4 学校給食会計について



地域福祉委員会

- 1 子どもの貧困について
- 2 子どもの発達障がい支援について
- 3 国民健康保険について



産業建設委員会

- 1 上下水道事業の経営について
- 2 水素社会について
- 3 地産地消(乾杯条例)について



8・9月の会議日程

※日程は変更される場合があります。

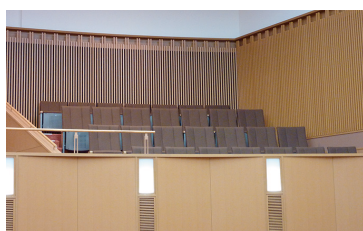
8月	10日	木	10:00	各派代表者会議
			13:00	総務委員会
			15:30	地域福祉委員会
	17日	木	10:00	全員協議会
	22日	火	10:00	議会運営委員会
	29日	火	10:00	本会議 (開会 提案説明)
	30日	水	14:00	議会運営委員会
9月	7日	木	10:00	本会議 (質疑)
	8日	金	10:00	本会議 (一般質問)
	11日	月	10:00	本会議 (一般質問)
	12日	火	10:00	本会議 (一般質問)、議会運営委員会 (本会議終了後) 各派代表者会議 (議会運営委員会終了後)
	13日	水	10:00	本会議 (一般質問、追加議案等、委員会付託) 予算決算委員会 (本会議終了後)
	14日	木	10:00	文教環境委員会 (分科会)、産業建設委員会 (分科会)
	15日	金	10:00	総務委員会 (分科会)、地域福祉委員会 (分科会)
	19日	火	10:00	文教環境委員会 (分科会)、産業建設委員会 (分科会)
	20日	水	10:00	総務委員会 (分科会)、地域福祉委員会 (分科会)
	25日	月	10:00	予算決算委員会、各派代表者会議 (予算決算委員会終了後) 広報広聴会議 (各派代表者会議終了後)
	27日	水	10:00	議会運営委員会
	28日	木	10:00	本会議 (委員長報告、討論、採決 閉会) 全員協議会 (本会議終了後) 議会だより編集会議 (全員協議会終了後)

議会を傍聴しませんか

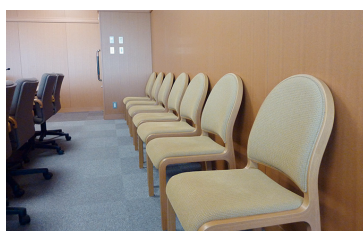


本会議や委員会などを傍聴するときは、市役所14階の議会事務局で傍聴券を受け取ってから入室してください。傍聴の受け付けは、会議開会の30分前からです。

なお、会議開催予定は、市議会のホームページや市役所の掲示板などでお知らせします。



本会議場：定員53名



委員会室：定員10名

音声が聞き取りにくい方に



議場傍聴席にて聞き取りにくい方には、ヘッドフォンを貸し出していますので事務局へお申し付けください。



議会に來れなくても…

CNS(ケーブルテレビ)で生放送

本会議の全日程をデジタル122chで生放送しています。放送時間は午前10時(開会時間)から会議の終了までです。

議会のホームページで録画映像配信

市議会のホームページで、テレビ中継した全日程の映像を定例会閉会日からおおむね2週間後に録画配信しています。

もっと詳しく知るには…

会議録があります!

会議の詳しい内容については、市役所本庁舎14階の議会図書室と4階の行政資料コーナーで閲覧できます。

なお、本会議の会議録は、市立図書館や各地区市民センターなどでも閲覧できます。

また、鈴鹿市議会ホームページで会議録を公開しています。

※6月定例会の会議録は、8月下旬に配置予定です。

詳しくは議会事務局にお問い合わせください

みなさんのご意見をお聞かせください

市議会や市議会だよりに対するみなさんのご意見・ご提案・ご要望をお聞かせください。今後の参考にさせていただきます。

あて先は

鈴鹿市議会事務局 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号

TEL:059-382-7600 FAX:059-382-4876

mail:giji@city.suzuka.lg.jp

議員からの寄附は禁止されています

議員(候補者を含む)が、親睦旅行会・会合・お祭り・運動会などの行事に、寄附や差し入れなどをしたり、祝い金(出産・新築など)や贈り物をする事は、公職選挙法などにより罰則をもって禁止されています。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

